

公益財団法人 博報堂教育財団

博報堂教育財団は、児童に対する国語教育と視覚・聴覚障がい者に対する教育を助成し、併せてその活動に関する調査を行うことで、健全な人間形成に寄与することを目的に、1970年に財団法人博報児童教育振興会として誕生しました。2011年に公益認定を受け、2020年に現在の名称に変更しています。優れた教育実践を顕彰するために創設された「博報賞」をはじめ、「児童教育実践についての研究助成」「教職育成奨学金」を基幹事業とし、『子ども×ことば×教育』の領域において、「日本語交流プログラム」「社会啓発事業」「日本語教育プログラム」「調査研究事業」などの活動を行っています。

詳細 ▶ [WEB](#) 博報堂教育財団

博報賞

児童教育現場の活性化と支援を目的として、財団創立とともにつくられました。「国語教育」「特別支援教育」「国際文化・多文化共生教育」など6つの領域において、教育現場で尽力されている学校・団体・教育実践者による波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献を顕彰しています。また、その成果の共有や、活動の継続と拡大の支援も行っています。

教職育成奨学金

小学校教員、特別支援学校教員、中学校・高等学校の国語科教員を目指す学生を対象に奨学金を給付しています。2024年3月期は、全国から97名が採用され、総勢247名の奨学生が在籍しています。また、教員になってからも続くネットワーク構築のため、集合研修や地域別交流プログラムを定期的で開催しています。



全国の奨学生が集まり議論を交わす集合研修

日本語交流プログラム

「文化の異なる人と、社会課題に向かって、ともに行動できる人」の育成を目的とし、日本の中学生と、日本語を学んでいる約10カ国の同世代の生徒たちが、日本語の力を大切にしながら、様々な活動を行っていくことを支援しているプログラムです。日本と海外の生徒たちが互いに交流し、文化の多様性を学びながらコミュニケーションを図っていくことで、生徒たちの成長を促します。日本校の生徒にとっては、1カ国のみではなく、約10カ国の生徒たちと一堂に会することで、それぞれの文化などを受け入れる心構えを持つことができ、日本文化を見直す良い機会になっています。また、日本語をメインのコミュニケーション手段としており、日本校生徒にイニシアティブを取って交流を促進してもらうことで、自己肯定感や探究のマインドを育てていくことにも寄与しています。



約10カ国から日本語を学ぶ生徒と教師が来日